

代表質問

北村市長の政治姿勢と  
ホースセラピーについて伺う



公明党 鯨井 眞佐子

北村市長の  
政治姿勢について

**問** 政治姿勢について、行財政改革をどのように考え、取り組まれるのか伺う。

**市長** 行財政改革については、平成22年度から26年度までの5カ年を計画期間とする八街市行財政改革プランにより、健全財政の堅持を図りたいと考えております。

**問** 中学校3年生までの児童医療費助成の早期実施はいつ頃から考えているのか伺う。

**市長** 中学校3年生までの医療費助成事業の拡大につきましては、平成23年4月から実施する方向で考えております。

**問** 保育所待機児童解消に向け、どのように取り組まれるのか伺う。

**市長** 最大受入可能数を再検証したところ、保育士が確保できれば、少数ではあります。受入数を増やせることが確認できましたので、新年度予算に必要な臨時保育士の経費を計上しました。今後も保育園待機児童を1

人でも多く解消することができるよう努めます。

**問** 八街駅前交番の設置は、着々と工事が進んでいるが、いつ完成して、いつから実質稼働するのか伺う。

**市長** 県内の交番設置要望が107カ所ある中、本市からの要望である八街駅前交番を今年度に設置することが決定され、2月下旬に完成予定であることから、3月には県内240番目の交番として開設されます。

**問** 榎戸駅東口開設は多くの市民が望んでいる。今後、どのように取り組まれるのか伺う。

**市長** 榎戸駅東口開設については、JRの新支社長からの簡易自由通路設置発言を受けまして、この機会を捉えて、今後、早い時期に支社長と面会して、さらにもう一步、協議をしてまいりたいと考えております。

**問** 小学校の英語教育の推進にどう取り組まれるのか伺う。

**市長** 平成23年度からの小学校外国

語活動の始まりにあたり、授業で活用できるデジタル教材を市内の全ての小学校に今年度中に配付いたします。また、ALTを活用した生きた英会話の指導も含め、今後も外国語活動の時間が充実するよう支援してまいります。

**問** 健康安全都市宣言をした我が市では、「健康は自ら守るもの」としてきたが、病気の予防として定期的な健康診断が大切である。

**市長** 医療費は増加の一途をたどっていることから、疾病の早期発見のため、短期人間ドック費用の助成については、実施の方向で具体的に検討してまいりたいと考えております。

**問** 子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン接種への助成の取り組みは如何か。

**市長** 市としては、子宮頸がん及びヒブワクチン接種に係る費用を全額助成するための助成事業を平成23年度に実施する

考えております。

なお、子宮頸がんワクチンの対象者は中学校1年生から中学校3年生の女子を対象に3回接種とし、ヒブワクチンは乳児から4歳児を対象に年齢に応じた回数接種できるように計画しております。

**問** 農業を大切に街づくりについて伺う。

**市長** 「八街産野菜イコール安全・安心でおいしい農産物」は、まだまだ消費者には浸透しているとは言えませんので、JAいんば等の関係機関と連携を図りながら、さまざまな機会を捉えてPR活動を展開し、ブランド化を図ってまいりたいと考えております。

**問** ホースセラピーについて

**市長** ご質問のホースセラピーにつきましては、介護予防の観点からも、その効果等を今後、

ホースセラピーとは？

馬とふれあうホースセラピーには、心身両面への直接的セラピー効果が認められています。

馬に乗ると、その高さやぬくもりが脳を刺激し、日常使わない筋肉や神経を使うマッサージ効果があります。

また、不安定な馬の上で無意識にバランスを取りながら筋肉を使う全身運動となり、ダイエットや病氣治療のリハビリ用として用いられています。

研究していく必要性を感じております。

なお、具体的な開催内容に応じて、可能なものにつきましては協力してまいりたいと考えております。